九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

巻頭言

中里見，敬
九州大学大学院言語文化研究院 ： 教授

https://hdl.handle.net/2324/7169351

出版情報：The Bulletin of China Studie. 23, pp.3-4, 2024-02-15. 霞山会
バージョン：
権利関係：

巻頭言

中里見　敬

コロナ禍の蟄居中、東亜同文書院の学生たちがのちに記した回想記を集中的に読んで過ごした。霞山会の派遣留学生として中国に留学させていただいたにもかかわらず、会の前身であった東亜同文会やその設立した東亜同文書院の歴史にこれまで向き合ってこなかった私にとって、得難い機会となった。

その読書から得た衝撃は、ひと言では言い尽くせないものだった。例えば、ノーベル文学賞作家カズオ・イシグロ氏の祖父石黒昌明は東亜同文書院の第 5 期生で、伊藤忠から豊田紡織の常務となり、上海居留民のまとめ役であった。イシグロの『わたしたちが孤児だったころ』という作品に、戦前上海の租界が詳しく描かれているのには、そういう背景があったのかと腑に落ちた。九州大学文学部で中国文学を専攻して最近卒業した学生から、曾祖父が東亜同文書院の学生だったという情報を得て調べてみたところ、27 期生の村井美喜雄氏であることが判明した。東亜同文書院には学生 YMCA が結成され、村井氏も上海でキリスト教に出会い、戦後牧師として過ごされたという。書院では酔っ払った学生が「寮回り」と称して下級生に飲酒を強要する風習があったが、キリスト教信者の坂本義孝（1 期生、のち教員）は禁酒を主張したという。回想記を読み進めるにつれて、多感な学生たちの共同生活の様子が目に浮かび、その多様性を許容する東亜同文書院の懐の深さも理解できるようになっていった。

しかし、日中戦争の泥沼化は書院の学生生活に大きな影響を与えずにはおかなかった。とくに盧溝橋事件に際会し、恒例の大旅行が中断され従軍通訳として駆り出された 34 期生は、「書院生として当初抱いた従軍の理想・信念が脆くも打ち砕かれるのを感じた」という（『東亜同文書院大学史：創立八十周年記念誌』、1982 年、574 頁）。その中で、中国語教員の野崎駿平は「通訳従軍など不見識きわまる、もってのほかの愚挙である」と反対したという（穴沢一寿「通訳従軍反対論者、野崎教授」、通訳従軍記編集委員会編『長江の水天をうち』、1993 年）。野崎駿平は戦後、東北大で教鞭を執り、私はその孫弟子にあたる。私の中国語の恩師・阿部兼也先生は野崎の直接の弟子であり、上級生が下級生に発音指導を行う東亜同文書院由来の「念書」という教授法を、1990 年代まで東北大で実践した。戦後、書院から引き揚げてきた中国語教員は、愛知大学や神戸市外国語大学で同じように「念書」を行ったが、各大学の事情や教員の個性により、その実態はまちまちであったようだ。阿部先生は放任主義で学生の自主的な指導に任せていたが、坂本一郎から佐藤晴彦へと継承された神

戸市外大では先生が「学生の口に手を入れてきた」というような厳しい指導が行われていた（紅粉芳惠、氷野善寛編『中国語、恩師、そして神戸』好文出版、2017年）。鈴木択郎の愛知大学では、1990年代には学生サークルが主催する部活動に姿を変えたという。

東亜同文書院の教科書『華語萃編』には、中国の生活に密着した実用会話が収められており、書院の中国語教育を彷彿とさせる。最近復刊された同書には、丁寧な注釈と翻訳が付され、当時の書院教師陣の意気込みを身近に感じることができるようになった（今泉潤太郎監修、石田卓夫編訳『愛知大学版東亜同文書院大学編纂『華語萃編』初集：影印・翻刻と総訳』不二出版、2023年）。

現在、私の勤務する九州大学では、初修（第二）外国語の必修単位数削減や選択科目化が提案され、議論の最中である。初修外国語は、初年次に全学部の学生が英語圏以外の文化と社会に接する窓口であり、理系を含む多くの学部の教員がその機会の失われることに危惧を抱いている。AIによる自動翻訳で十分なので、語学の授業は不要という極論は現状ごく少数である。

過去1世紀の中国語教育は、高等商業学校など一部の高等教育機関でのみ開講されていた戦前から、初修外国語の中で最大の受講生を抱えるようになった2000年代まで、質量ともに大きな変遷をたどってきた。中国理解とその裾野の拡大に一定の役割を果たしてきた大学の中国語教育は、いま新たな曲がり角を迎えようとしている。

（九州大学言語文化研究院教授、1990年度霞山会給付派遣留学生）

付記：「念書」に興味を持たれた方は、本誌第22号所載の拙稿「東亜同文書院の伝統的中国語教授法「念書」とその戦後における継承」をご参照いただければ幸いです。